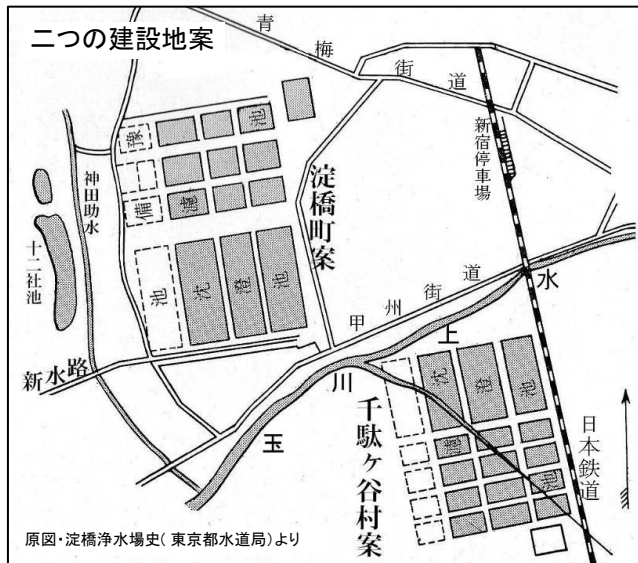


今はない淀橋浄水場

淀橋浄水場は当初案では玉川上水の右岸、千駄ヶ谷村に建設が計画された。しかし、この案は玉川上水からの取水は容易であるが傾斜地で盛り土が必要であり、また自然流下式で市内配水するためには位置的に不利とされた。これに対して変更案の淀橋町は千駄ヶ谷村よりも15尺(約5m)高位置のため配水のための送水動力費が軽減されるなど維持費が安くなり経済的とされた。

淀橋町案は玉川上水路左岸の高所になるため取水口を上流側にさかのぼって造る必要があった。玉川上水路は人家の多い笹塚付近で大きくカーブしており、水質保持や管理上からも問題が多く、水路の建設費はかかるが長期的には新水路建設が有利との結論となり、このため代田橋付近から自然流下式の新水路が建設された。



明治26年(1893)淀橋浄水場で改良水道起工式が行われ、同31年12月ほぼ完成、神田・日本橋方面へ沈殿水の送水を始めた。翌年2月からはろ過水が送水され本格的に稼動を開始した。浄水場の総面積は約34万㎡(10万坪)。

これによって玉川上水や神田上水からの石樋や木樋などによる旧上水道は明治34年(1901)に廃止された。玉川上水は淀橋浄水場への水道原水の導水路となり、杉並・和泉町から四谷大木戸までの水路は役目を終える。

その淀橋浄水場も昭和10年代に新宿駅西口の再開発が計画されたが戦争で中断した。戦後、新宿副都心計画(昭和35年3月)により、第二次水道拡張計画で新設の東村山浄水場へ移転が決まった。段階的に東村山浄水場に機能が移され昭和40年3月末で送水を停止し、4号沈殿池跡に淀橋給水所が新設された。その外の跡地は新宿中央公園や東京都庁を初め超高層ビル群に変貌を遂げた。

今でも残る開渠の水路

代田橋駅付近から笹塚駅付近に今でも3箇所、開渠のままの水路が残る。この開渠区間も他と同じく暗渠化される寸前に地元PTA等の強い保存運動で開渠の水路が残された。

- ・繁栄橋(甲州街道)から第一号橋(代田橋駅付近)間の約150m。
- ・稲荷橋から第二号橋(笹塚駅西)間の約200m。
- ・三号橋(笹塚駅南)から笹塚橋先(三田分水口跡)迄の約200m。

稲荷橋付近下流方向(右)

三号橋から下流方向(下)



昭和30年頃の淀橋浄水場(手前は新宿駅)

玉川上水ワンポイントガイド No. 18

散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅



「玉川上水の記」碑

文化女子大付近の水路跡、玉川上水の面影は全く失われた。都水道局により平成15年1月、新宿駅構内にあったレンガ造りの玉川上水地下水路をモチーフとしたモニュメントが造られた。

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

1. 玉川上水の概要
2. 玉川上水の分水
3. 玉川上水の分水・小平編
4. 玉川上水と小平周辺の新田開発
5. 玉川上水の橋
6. 玉川上水の水車
7. 玉川上水の通船・船溜り
8. 玉川上水の樹木・野草・野鳥
9. 玉川上水と小金井サクラ
10. 玉川上水あれこれ
11. 玉川上水お勧め散歩ガイド
12. 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13. 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅

No.	テーマ
14	玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15	玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16	玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅
17	玉川上水散歩ガイド 富士見ヶ丘駅から代田橋駅
18	玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19	小平市内の用水分岐水門・分岐口めぐり
20	小平市内の石橋供養塔めぐり
発行 2009年4月 No1~No13発行済	

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治

散歩ガイドマップ

代田橋駅から新宿御苑駅

代田橋駅から新宿御苑駅まで約7.0キロ

玉川上水路の最下流部のこの区間、終点四谷大木戸まで一部を除いて暗渠化され、公園や緑道、鉄道軌道などに利用されている。都市化によりその跡を辿るのが困難になった箇所も見られる。

反面、代田橋駅や笹塚駅付近の三ヶ所(約550m)には、ほぼ素掘りの水路が開渠で残され、豊かな自然を感じる空間となっている。

この区間は淀橋浄水場の稼動にともない明治34年(1901)旧上水が廃止され上水路の役割を終えた。緊急用に水路が残されていたため関東大震災の折、新水路決壊時にはその代役として再登場、千駄ヶ谷橋近くのポンプ場から浄水場へ旧水路から揚水された。



幡ヶ谷分水と三田用水

幡ヶ谷分水は幡ヶ谷村の水田用として開設。開設期は不明であるが宝暦年間(1751)頃とされる。全長16町、寸坪4坪(2寸四方)、後に20.25寸坪に変更。分水口跡が第二号橋の上流左岸に残る。水路跡が笹塚3丁目付近まで続く。

三田用水

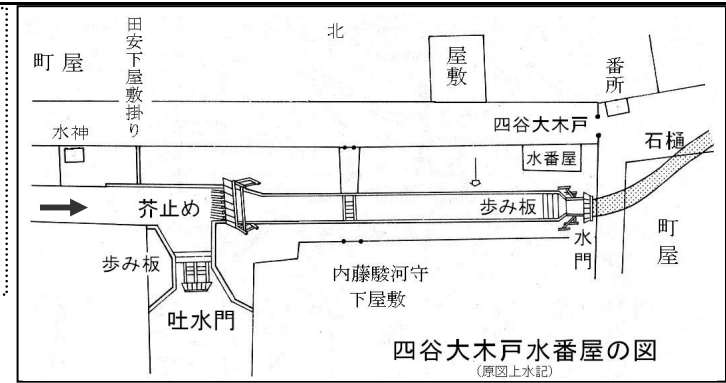
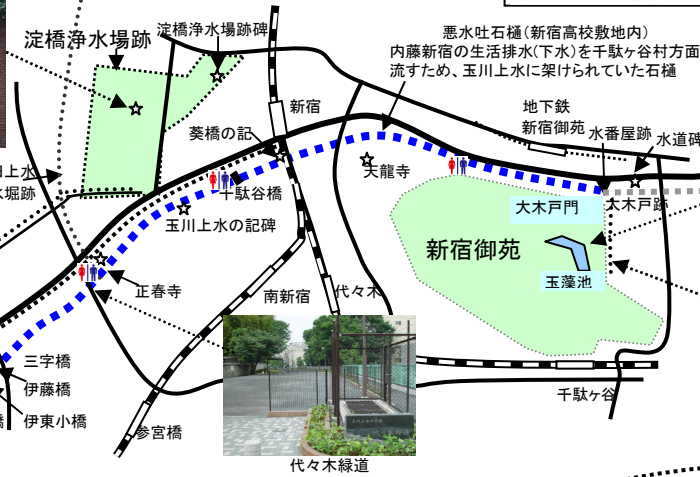
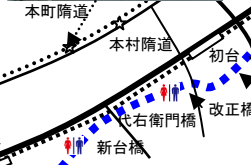
笹塚橋下流の暗渠口付近右岸に三田用水への分水口があった。淀橋浄水場の閉鎖後も三田用水を利用していた恵比寿のビール工場への通水のため、境浄水場から維持用水が昭和49年(1974)8月まで(1日3千トン)流され続けた。

神田上水助水堀跡

寛文7年(1667)神田上水に玉川上水の水を引き入れる助水堀が造られた。水口寸法一尺三寸四方(後3尺5寸×2尺5寸)。正春寺脇の地点から約1.3km北側、神田上水と青梅街道が交わる「淀橋」まで、ほぼ直線に水路があったとされる。また淀橋水車堀にも使われた。

この堀は明治30年(1897)淀橋浄水場への新水路の完成により役目を終えたが、引き続き水路は淀橋浄水場の余水吐として使われた。現在堀は埋められているが水路跡の一部が残る。

東京水道発祥の地碑



新宿御苑内大木戸門を入った突当りにある玉藻池を中心とする日本庭園は、安永元年(1772)に玉川上水の余水を利用した内藤家の庭園『玉川園』の一部であった。



余水吐堀跡

北沢橋から再び渋谷区に入り、南方向へ流れていた水路は北沢橋手前付近から大きく向きを変え北方向からだんだんと北東方向へと進む。ここから先の水路跡は公園となっている。多くの橋の親柱や欄干が通水時の面影をとどめる。

渋谷区内に残る橋(北沢橋下流)

- 美寿々橋 大正14年6月架橋 最近親柱、欄干が新設。
- 二字橋 昭和2年10月架橋 親柱、欄干が上流側だけ残る
- 西代々木橋 上水記に「代右衛門橋」の名がある古い橋 平成元年12月に親柱、欄干が新設された。
- 新台橋 大正15年3月 架橋 最近、親柱、欄干が新設。
- 代右衛門橋 上水記に代右衛門橋、藤十郎橋共云々とある古い橋。最近親柱、欄干が新設された。
- 改正橋 最近親柱、欄干が新設された。
- 伊東小橋 最近親柱、欄干が新設された。
- 伊藤橋 昭和39年架橋の橋の片側が山手通り脇に残る。
- 三字橋 比較的古い橋 親柱、欄干が残る。
- 天神橋 上水記にも名のある古い橋、「天神橋碑」が建つ。
- 勿来橋 「勿来橋跡碑」が幸うじてその存在を物語る。
- 千駄ヶ谷橋 上水記にも名がある古い橋。昭和36年3月架橋の上流側左岸のみ親柱が残る。ここから下流側約250m先の葵橋跡までが「葵通り」。また上水路跡に建設された「東京南新宿ビル」の壁面に「葵橋の記」が、地元の要望で設置されている。

- 北沢橋 上水記に「撰津守橋」と名がある古い橋。「角神橋」の名を経て現在の橋名となったとされる。大正12年12月架橋の親柱が下流側に残る。
- 四條橋 大正13年架橋 平成4年2月に親柱、欄干が新設
- 五條橋 大正13年架橋 平成5年3月に親柱、欄干が新設
- 六條橋 昭和5年架橋 平成2年12月に親柱、欄干が新設
- 常盤橋 比較的古い橋 平成2年3月に親柱、欄干が新設
- 相生橋 大正13年11月架橋の親柱、欄干が残る
- 代々幡橋 上水記に「延寿橋」の名がある古い橋。平成元年9月に親柱、欄干が新設。
- 山下橋 昭和10年6月架橋 平成5年12月に親柱、欄干新設 古い橋の親柱が上流側右岸に残されている。